

大地の鼓動と開拓者精神が感じられる火の島

しまじま 島々

もよう

vol. 9

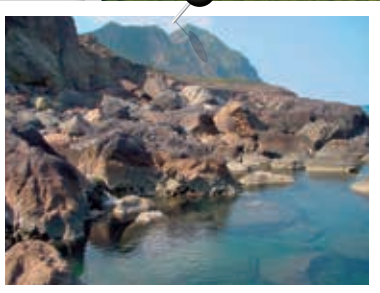
Suwanosejima

諏訪之瀬島

**国内有数の火山島は
移住者が歴史を紡ぐ**

時折モクモクと噴煙を上げる御岳が島のシンボル。諏訪之瀬島では、長期にわたり御岳が噴火を繰り返しており、現在も活発な火山活動が続いています。

諏訪之瀬島は文化10年(1813年)の大噴火から約70年間は無入島でした。明治時代になって奄美大島出身の藤井富伝(とみでん)が入植し、再び人の住む島となりました。また、昭和40年代には、既存の制度や価値観を否定し、自然への回帰などを提唱す



▲島のシンボル御岳
マルバサツキ▶
◀ 秘湯 作地温泉

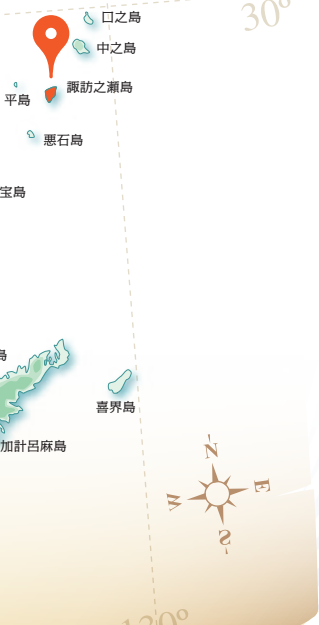


畜産も島の主要産業です。諏訪之瀬島には3つの牧場があり、牛が育成されています。その広さは合計で約71ヘクタール。火山の裾野で牛がのんびりと遊ぶ牧歌的な風景も島の見どころです。

好漁場の多いトカラ列島の中でも、諏訪之瀬島は漁業が盛んな島です。近海はカツオやサワラ、イセエビといった海の宝庫。産卵のために集まったところを網ですくい獲るトビウオ漁も、初夏の風物詩となっています。また、ロウニンアジなどの大物が釣れることから、多くの釣り人が島を訪れます。

**自然の恵みたっぷり
釣り人にとっても憧れの地**

る「ヒッピー」と呼ばれる人々が移住し、都会から来た若者や外国人などが共同生活を行っていました。その中には島に定着した人も少なくありません。このように変化に富んだ歴史も諏訪之瀬島の特徴です。



船でしかいけない秘湯中の秘湯「作地温泉」をはじめ、珍しい貝殻や星砂が採取できる「ナハ浜」、乙姫伝説の残る「乙姫の洞窟」といった名所もあります。
また、十島村では「トカラ列島島めぐりマラソン大会」を毎年秋に開催。これは村営定期船を利用して十島村の7つの島を走るというユニークなマラソン大会です(平成27年度の参加者募集はすでに終了しました)。

島々メモ

溶岩原が桃色に染まる

マルバサツキ

島北西部の溶岩台地はマルバサツキの大群生地となっています。マルバサツキはツツジ科の低木で、鹿児島県南部から南西諸島にかけて自生しており、十島村の村花にもなっています。低地では5~6月、400m以上の高地では7月~8月に開花。山肌が一面ピンク色に染まる景観は圧巻です。



- [位置] 北緯29度36分41秒/東経129度42分11秒
- [面積] 27.66km² [周囲] 24.5km
- [人口] 72人/33世帯(平成27年4月末現在)
- [地形] 標高799mの御岳を最高峰とする火山島
- [主な産業] 畜産業、農業、漁業
- [アクセス] 鹿児島港から村営の「フェリーとしま(1,391t)」が週2便運行。所要時間は鹿児島港から約8時間。

問い合わせ先:十島村役場 ☎099(222)2101

(所在地は鹿児島市内)